都会の人や地域の若手とともに地元の森を育成

世田谷区民健康村

東京都世田谷区と川場村の協力協定により、区民と村民の交流が行われている世田谷区民健康村。「健康村里山自然学校」では、地元の熟練者が都会の人々に農業や林業を教えている。

間伐の実践で、切株の切り口について説明

鎌の研ぎ方を丁寧に指導する

●活動内容

健康村里山自然学校は、川場村内８地区のうち、２つの地区のふじやまビレジ、なかのビレジを拠点に開催されている。「農業塾」には、年間を通して野菜づくりを行うコースなどがある。「里山塾」では、家族連れも多い一泊の「里山体験教室」と、年間を通じて行う「養成教室」がある。

里山塾で指導にあたる宮田和昌さん（78）は、地元の森林で50年以上活動する、川場の木を知り尽くした人だ。川場村では村の森林の木で家を建てる人もおり、宮田さんも自宅を建ててから木に対する興味が深まった。その後、頼まれて森から切り出した木材で川場村内に民家を数件建てている。その経験から、家を建てる時に、木材として使える木を、何十年もかけて育てることを念頭においた指導を行っている。里山塾は「友好の森」と呼ばれる80ヘクタールの山林で実施。養成教室の対象は16歳以上だが、受講者は50代から70代を中心に、10～15名ほどだ。年間７回の教室で、草原環境の整備、茅葺き屋根づくり体験、山の草刈り、山の手入れなどに取り組む。１年間参加して興味を深め３、４年継続して参加する人もいる。

●事業を始めたきっかけ

世田谷区が区民のふるさととなる自治体を募集し、立候補した52の市町村の中から、川場村が選ばれたことをきっかけに交流が始まり、世田谷区民が自然環境保全にかかわる活動として、平成７年に里山塾（当時は、やまづくり塾）が始まった。当時は、農業経験が豊富で、比較的時間に余裕がある高齢者に「指導者バンク」に登録してもらい、指導にあたってもらっていた。

その後、村内で農業、林業を営む宮田さんを副校長に健康村里山自然学校を開始。宮田さんは森林組合の組合員の方々と里山塾で主に林業に関する指導にあたり、農業塾は農業に詳しい地元の方が指導をしている。

以前、地区にゴルフ場建設の話が出た時「目先のことだけでなく50年先を考えよう」と村の人の説得にまわった宮田さん。その思いが現在につながっている。

里山塾では森林の手入れとして間伐も行う。「どんな木を残せば家をつくる時に使うしっかりした木ができるのか考えて間伐します。肌を見て、80年、100年、と頑張れる木を残す。木を育て山を育てる楽しみを説明すると、参加者も分かってくれます」と、宮田さん。

危険がともなう作業は、教える側も教わる側も真剣

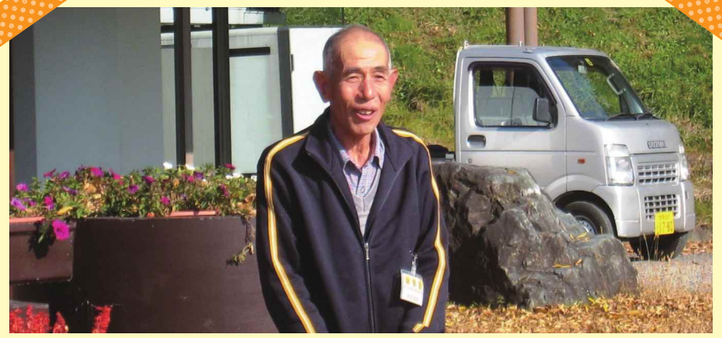
大勢の人とともに川場の木を大事に育てていく

●工夫している点・特長

里山塾の養成教室では、毎年12月に受講者と森の土地を所有する地元の人々が一緒に森に入り、共同で間伐作業をする。この土地の所有者の中には、村のリンゴ農園の跡継ぎなど、若い世代も多い。宮田さんらの里山塾での活動を見ていた30～40代前半の世代が、それまであまり関心のなかった森へと足を運びはじめた。地元と都会の人が、お互いの山に関する考え方など話し合い、交流も生まれている。

里山塾の養成教室修了者が作った「山づくりクラブ」も、毎月１、２回、山に入り整備などにあたる。宮田さんはここでも助言を行う。親しい間柄になっており、林業のこと以外にも、村の特産のおいしいリンゴの話などもするそうだ。

山に馴染みのない区民と村民が一緒に楽しみながら活動することで、環境保全につながると同時に、人と人との交流も盛んになる。技術を持つ人々がこの地の農林業を支え、若い世代も後継者として育ちつつあり、地域高齢者のやりがいや楽しみとなっている。



〈やりがい・楽しみ〉

「川場村の８地区のなかで一番跡継ぎがいるのが、里山塾を行っている中野地区です。その若い世代から、教えてほしいと声をかけられるとうれしいですね。多くの人との交流も楽しいです。自己流でも木を切ることはできるけれど、基本が大切。50年を超える山の経験から、伝えられることはすべてみなさんに伝えていこうと思っています」と、宮田さん。森を思う気持ちは着実に広がり、次世代へと受け継がれている。

基礎データ

☎0278-52-3324
株式会社世田谷川場ふるさと公社

事業開始時期／
平成７年
（やまづくり塾として開始）
平成18年
（里山自然学校として開始）

主な活動／
体験を通した農業や林業の指導

人数・年齢／指導者６～７名
60代半ば～70代半ば

主催／世田谷区と川場村

実施主体／株式会社
世田谷川場ふるさと公社